

附属機関等会議録

令和6年12月25日

会議の名称	令和6年度第2回(通算:54回目)島田市諏訪原城跡整備委員会
開催日時	令和6年12月12日(木) 13時45分から 15時30分まで
開催場所	島田市博物館工作室、諏訪原城跡
会議の議題	<p>《開会》</p> <p>《博物館課長あいさつ》</p> <p>《報告事項》</p> <p>①令和7年度諏訪原城跡事業(案)について</p> <p>②令和6年度大手曲輪堀発掘調査の成果について</p> <p>《協議事項》</p> <p>①大手曲輪堀実施設計について</p> <p>《現地視察》</p> <p>●大手曲輪堀確認・・・実施設計図面との照合</p>
会議の公開又は全部若しくは一部の非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 ( 全部 ・ 一部 )
会議の全部又は一部の非公開の理由	
公開の場合の傍聴人の数	0人
出席者の氏名等	<p>整備委員：小和田委員長、三浦副委員長、加藤委員、前田委員</p> <p>県文化財課：大谷班長</p> <p>事務局：松下課長、萩原係長、飯塚主任、篠ヶ谷主任学芸員、縣主査、塚本会計年度任用職員、関根会計年度任用職員</p> <p>コンサルタント(株式会社フジヤマ)：中村、杉山、川瀬</p>

会 議 の 結 果

《開会》

《博物館課長あいさつ》

- ・ 来年度は市制20周年、国指定史跡諏訪原城跡が50周年の記念の年を迎える。
- ・ この秋にもイベントがあり、多くの方々に親しまれている。
- ・ 今後も市民と一体となり、多くの方々に親しまれ発展できるようにしたい。
- ・ 今後とも委員の皆様方にもご協力をお願いしたい。

《報告事項》

①令和7年度諏訪原城跡事業(案)について

- ・ 史跡整備関係、諏訪原城の活用・プロモーションについて、その他「茶園基盤整備事業（諏訪原城周辺）」など  
(説明:事務局)

(委員からの質問)

- ・ これまでに史跡整備報告書は刊行されていなかったのか。

(事務局の回答)

- ・ 発掘調査報告書の刊行はしていたが、史跡整備報告書の刊行はできていなかった。史跡整備報告書の執筆と並行して、保存活用計画の策定も進めていく予定。文化庁の市原調査官に対しても参考事例を伺った。まずは、目次から骨子案をつくることを始めていきたい。

(委員からの意見)

- ・ 保存活用計画は、様々な先進事例があるが、諏訪原城跡の場合、どの保存活用計画を見本とするかは判断し難い。県内の史跡保存活用計画に限らず、よい事例を見つけて進めてほしい。「しずおか遺産」は、まだ一般に馴染みがないが、諏訪原城のPRの機会にもなると思うので、ぜひ取り上げてほしい。

②令和6年度大手曲輪堀発掘調査の成果について (説明:事務局)

- ・ 北外堀の第1トレンチ南側からは土塁の痕跡が確認でき、北側には土留めと思われる礫層を確認した。第2トレンチ南側については、検出遺構を土塁と判断していい

か現地で委員の先生の意見を伺いたい。また、第1トレンチでは現地表面より約1m掘削したところで堀底を検出しており、平成23年度調査成果に比べると、堀底の標高が浅く、南北法面の勾配も比較的緩いことが分かった。

南外堀の第3～5トレンチ南側にて土墨の痕跡。北側に土留めと思われる礫層を確認した。第3トレンチでは、現地表面より約2m掘削したところで堀底を検出し、平成24年度調査成果と比べると堀底の標高が浅い。ただし、南北の法面勾配は大きく変わらない。

以上の結果から、大手曲輪北外堀及び南外堀の堀底は、東に向かって下がっていくような勾配がついていると考えられる。諏訪原城跡内を地形的に見ても、丸馬出側の方が低いためそのまま傾斜をつけたと思われる。

(委員からの意見)

- ・現地確認時に詳細を確認したい。

《協議事項》

①大手曲輪堀実施設計について (説明:フジヤマ)

(県文化財課からの質問)

- ・今回の調査で雨水がたまることはなかったか。

(事務局の回答)

・雨が降ったことはあったが、水がたまったことはなかった。丸馬出し側に向かって地形に傾斜がついているため、雨水はそちらへ流れていると想定される。

(委員からの質問)

・堀跡断面修正の検討案は、堀底の幅を維持したまま浅くするA案で進めるということか。ジオセル擁壁工法とは積み上げていくような工法か。素材は何か。

(事務局・コンサルの回答)

そうである。プラスチック類である。

(委員からの意見)

土のうに枠があるイメージである。問題ないと思う。急勾配でも問題ないと考える。正確には高密度ポリエチレンのようだ。

《現地視察》

●大手曲輪堀確認・・・実施設計図面との照合 (説明:事務局)

**【大手南外堀】**

(委員からの質問)

土塁と考えられる場合、その範囲は将来的に表面表示を  
するということか。調査区は一度埋め戻すのか。ビジ  
ターセンターの外壁に断面を描くなどしてはどうか。

(事務局の回答)

将来的な整備の中で、表示方法を検討していくことになる。  
今回は、堀跡の整備を進め、今後保存活用計画を策  
定する中で、改めて園路を含めて一体的な整備手法を検  
討する必要があると考えている。調査区は一度埋め戻す  
。南外堀の南側で土塁跡が見つかったが、現在はそこに  
官民境界があるため今回の整備で土塁の復元は想定して  
いない。

(委員からの意見)

・第5トレンチ南側区画にて石が並んで検出した場所は  
、土塁を意図的に留めるための遺構のようにみえる。第  
3トレンチで検出された土塁の土留め礫からの延長とし  
て位置も合ってくるのではないだろうか。第5トレンチ  
北側区画にて、園路造成に伴って遺構が消滅していると  
分かった位置にジオセル擁壁工法を設置するのはどうか  
。その周辺に残存している遺構は礫が多いため、砂では  
なく土のうをかぶせて保存するような工夫が必要である  
。

(県文化財課からの質問)

・第3トレンチの断面はしっかり記録保存しておくべき  
成果である。なるべく断面が水平に撮れるようにカメラ  
の画角には注意すること。4×5などの大判カメラで撮  
影してはどうか。

(事務局の回答)

記録保存の仕方に注意する。

**【大手北外堀】**

・第2トレンチの南側土塁天端については、武者走りや  
馬踏みの可能性があるだろう。武者走りは1～2間程度

	<p>の平場で造ることが多いため規模としては考えられる。また、土塁の天端を平坦にしておけば緊急時に仮設木柵などを設置することが可能である。仮設構造物であれば、遺構として出てこないこともある。武者走りと考えれば、ちょうど該当する大きさであろう。武田時代と徳川時代を判別できる遺物もしくは遺構はないのか。武田時代に築造された城の堀幅はとても狭いのが特徴だが、大手曲輪北外堀の堀幅は広いため、徳川時代に築造された堀と思われる。南外堀の時にも伝えたが、今回の調査記録をどのようにまとめるのかが非常に重要である。事務局側でも対応を考えていただきたい。</p>
<p>提出された資料等</p>	<p>【資料1】 令和7年度 諏訪原城跡事業（案）について（事務局）  【資料2】 大手曲輪堀発掘調査の成果について（事務局）  【資料3】 大手曲輪実施設計について（株フジヤマ）</p>
<p>会議を所管する課の名称</p>	<p>島田市観光文化部博物館課</p>
<p>その他必要な事項</p>	